

第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

■ 日 時 平成 28 年 5 月 16 日（月）15:00～16:30

■ 場 所 福岡市水道局 別館 2 階 大会議室

■ 出席者 〔委員〕
池山委員，宇野委員，加留部委員，小出委員，広城委員（座長），
藤田委員，前田委員

■ 傍聴者 3名

■ 議事次第

- 1 開会
- 2 委員等紹介
- 3 福岡市水道事業管理者あいさつ
- 4 議事
 - （1）新たな福岡市水道長期ビジョンの構成案について
 - （2）新たな福岡市水道長期ビジョンの素案骨子について
- 5 閉会

＜配布資料＞

- 資料 1 福岡市水道長期ビジョン 2028（仮称）構成案
資料 2 福岡市水道長期ビジョン 2028（仮称）素案骨子

第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
	1 開会 2 委員等紹介 3 福岡市水道事業管理者あいさつ 4 議事 (1) 新たな福岡市水道長期ビジョンの構成案について
事務局	<資料1を事務局から説明>
委員	第3章「現状と課題」において、福岡市の人口推計として当面は人口増加が続き、平成47年頃にピークを迎えること、及びその後は人口が徐々に減少し、料金収入も減少する見込みであることが示されている。しかし、現状として人口が増加する中でも、料金収入は横ばいで推移しており、人口増加イコール料金収入が増加するとの誤解を生じさせないように、人口と料金の関係性を記載することが必要と考える。
福岡市	福岡市の人口増加に伴い、家事用の料金収入は着実に増加しているが、一方で家事以外用の料金収入は、大口需要者の地下水利用や節水機器の普及などにより減少傾向にあり、全体としては近年横ばいで推移している。なお、将来的に人口が減少に転じることで、料金収入が大きく減少する可能性があり、将来的な課題も含めて料金収入の見通しを丁寧に説明していきたい。
座長	料金収入の見通しについては、新ビジョンの中で、どこまで具体的に説明するのかを、今後事務局で検討を重ねてもらいたい。
委員	現在の水道長期ビジョンにはない、第2章「福岡市水道事業の概要」が、新ビジョンに追加されているが、これは新ビジョンを見る市民に福岡市水道事業を理解していただくために、追加したものなのか。
福岡市	お尋ねのとおりで、新ビジョンでは、福岡市水道事業の基本的な情報を示し、現状をより理解しやすいように示したうえで、水道事業が抱える現状や課題等を説明したいと考えている。なお、現ビジョンでも、水道事業の概要を巻末の資料編に記載しているところであるが、新ビジョンでは、新たに章立てして第3章「現状と課題」の前で説明する予定としている。
委員	水道事業の概要の説明では、図表に加えて解説を行い、市民に伝わるよう分かりやすく示すことが重要である。

第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
座長	新ビジョンの第2章「福岡市水道事業の概要」では、福岡市の水道事業の概要について分かりやすく説明するとともに、第3章「現状と課題」をスムーズに理解できる説明構成とするよう、要望する。
委員	第5章「財政収支見通し」では、収益的収支などの見通しについてグラフを用いて記載するとのことであるが、グラフだけでなく解説も加えるのか。
福岡市	財政収支の見通しについては、現ビジョンで示しているグラフをベースとして、より丁寧な解説に心がけて記載していく予定である。
委員	独立採算制により事業運営を行う水道事業では、第4章「計画期間中の取り組み」の前に財政収支の見通しや財源・事業費を説明したうえで、計画期間中の事業を説明する流れで構成することも一つの方法であると考ええる。
委員	財政収支の見通しをどこで説明するかについては、水道局が財政収支を計画として捉えるのか、それとも事業運営の結果としての見通しとして捉えるのかにより、異なってくると思われる。
委員	財政収支の見通しを第4章「計画期間中の取り組み」の前で示し、財政収支をどう計画的に考えていくのかという水道局の意志を示すことも重要であると考えており、今後、懇話会の中で引き続き議論が必要と思われる。
福岡市	水道局の使命は、安全で良質な水を安定供給することである。そのために、計画的な水道施設の維持・更新と併せて、財源を安定的に確保していくことが、通常の公共事業と異なる点である。現ビジョンにおいては、事業の取り組みの後に財政収支の見通しを説明しているが、今後の議論を踏まえながら、工夫していきたい。 （2）新たな福岡市水道長期ビジョンの素案骨子について
事務局	<資料2を事務局から説明>
委員	現ビジョンでは8つあった施策目標が、4つに集約されたことで分かりやすくなり評価できるが、それぞれの関連性が分かりにくい。基本理念の実現に向けて、どのようにして4つの施策目標を設定したのか。

第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
福岡市	基本理念の実現に向け施策目標を設定しており、4つの施策目標のうち、一つ目の「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」については、「水道水を安定的に供給する」という水道事業者の使命及び福岡市が過去に経験した2度の大渇水と、渇水を教訓にした節水型都市づくりの経緯から設定。二つ目の「安全で良質な水道水の供給」についても、「安全で良質な水道水を供給する」という水道事業者の使命から設定。三つ目の「危機管理対策の推進」については、水の安定供給の側面もあるが、東日本大震災などの大規模な災害に対する対策が特に重要性を増していることを踏まえて設定。四つ目の「安定経営の持続」については、安定給水を支えるための安定経営の持続の観点から設定したものである。
委員	基本理念の実現に向けた4つの施策目標の設定について、基本理念の実現と施策目標の関連性や、施策目標の横のつながりが説明できるよう、イラストや図を使って視覚的に分かりやすく示す必要があると考える。
委員	施策体系を系統図で示すことは、施策を網羅するうえでの利点となるが、施策の関連性や優先度・重要性が見えづらくなる欠点がある。イラストや図を使って個々の施策の関連や、優先度・重要性を視覚化することで、水道局の事業がより分かりやすくなると思われる。
座長	イラストや図を使って施策体系を説明する際に、厚生労働省が平成25年3月に「新水道ビジョン」で示した3つの柱である「安全」、「強靱」、「持続」の観点と、福岡市の新ビジョンの施策体系がどう関連するかをチャート化する方法もある。施策の優先度・重要性の示し方については、これまでの委員の意見を踏まえながら、新ビジョンでの見せ方を検討してほしい。
委員	施策体系のチャート化の一つとして、水源からじゃ口までの水の流れを示したイラストに、関連する施策を示すことで、どの過程のどこに課題があり、課題解決のための施策をどう水道局が実施するのかが、伝わりやすくなると思われる。
委員	12年間の財政収支の見通しの中で、設備投資や企業債償還金などの支出や、将来の人口推計を踏まえた収入、企業債残高の縮減の見通しなど、収支が一目瞭然に分かるように示していくのか。
福岡市	収支や企業債残高の見通しについては、第5章「財政収支見通し」において示していく。なお、収支については、企業会計である水道事業の経営実態を正確に捉えるため、単年度で考える損益と、長期的に考える設備投資を分けて、収支を示していくことになるが、分かりやすく説明できるよう見せ方を工夫したい。

第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
委員	計画期間中の事業と財政収支見通しが別の章で説明される構成になっているが、事業と財政支出は本来リンクしているものであり、事業と財政支出が同時に分かるように説明したほうが良いと思われる。
福岡市	水道料金をお支払いいただく市民の方に納得していただけるよう、事業と支出を切り分けて説明するのではなく、事業ごとに必要性や優先度に加えて事業費を示していくことも重要だと感じている。
委員	事業と投資額の見せ方として、事業や財政の課題や危機感を市民と共有できる見せ方も重要と考える。
座長	新ビジョンが市民との合意形成の一助となるよう、今後とも議論を深めていきたいと思う。
委員	成果指標について、事業によっては成果を定量化しにくいものがあると思われるが、出来る限り目標を定めて、事業に取り組む必要があると思われる。
座長	目標を定量化しにくい事業については、現ビジョンの「お客さまサービスの向上」の成果目標として設定している「満足度」など、水道局で実施する「お客さまアンケート」などを活用した成果指標の設定も可能だと思われる。
福岡市	「お客さまアンケート」は2年に1回実施しており、現ビジョンで成果指標としている「満足度」は、アンケートで得られた水道行政に満足されているお客さまの割合を示したものである。新ビジョンにおいて、成果を定量化しにくい事業は、「お客さまアンケート」の活用も含め、指標設定を検討していきたい。
委員	水道行政全般に係る総合的な満足度だけでなく、水質や電話応対に対する満足度など、多角的にアンケートを実施し、具体的に水道事業のどの部分が改善しているのかを見えるようにすると、今後の改善点が見えてきて、職員の意識も変わってくると思う。
福岡市	お客さまアンケートについては、節水意識や水道水を直接飲むお客さまの割合などを、調査者の年齢の違いなどによりどのように変化するかを、クロス集計などで分析している。今後とも、アンケートの分析結果を踏まえつつ、事業運営に反映させていきたいと考えている。
委員	各事業のスケジュールに、これまでの取組みや実績値などを加えて説明することで、今後の事業の優先順位なども分かりやすくなるのではないかと。

第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
福岡市	現ビジョンの事業について、成果指標の達成状況を分析・評価したうえで、新ビジョンの事業を説明していきたいと考える。
委員	水道長期ビジョンの実施計画である「中期経営計画」の計画期間を4年間としている理由は何か。
福岡市	水道事業など地方公営企業は、長期で財政収支の見通しを立てることになっている。また、日本水道協会の「水道料金算定要領」の中では、料金算定において概ね3～5年の期間で財政収支の見通しを立てることになっていることなどから、本市では中期経営計画の計画期間を4年に設定している。
座長	福岡市の水資源開発としては、五ヶ山ダムが平成29年度に完成する予定であり、これで水源開発が区切りを迎えると聞いている。また、水道施設の大量更新期を迎え、水道料金収入が伸び悩む中での対応が必要であり、新ビジョンの策定にあたり、懇話会委員からのいろいろな意見が課題解決の一助になればと思っている。
福岡市	本日は、委員のみなさまから多くのご意見をいただいたことを感謝します。新ビジョンの策定にあたっては、水道を利用していただく市民のみなさまに、水道事業の課題や今後の運営方針を分かりやすく伝え、ご理解いただくことが重要であると改めて認識したところであり、その点も十分留意しながら策定に取り組んでいきたい。 5 閉会
座長	今回の会議での意見等を踏まえ、新ビジョンがブラッシュアップされることを期待する。また、次回の懇話会に向け、水道局での更なる検討をお願いしたい。 以上で、第2回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会を終了する。